

校長だより 4月

## 「多様性」を受け入れ、「持ち味」を出す。そして「ONE TEAM」へ

春陽の候、みなさまにおかれましては、ますますご壮健のことと拝察いたします。

今年度も昨年度と同様、管理職は校長木村淳、教頭西藪真太郎の二人でこの加賀田中学校を舵取りしていきたく思います。今後ともよろしく願いいたします。

さて、4月4日に執り行われた入学式では、「多様性」「持ち味」「ONE TEAM」という言葉をキーワードにお話しさせていただきました。特に「多様性」では今世界の中には、この考え方を否定するような動きさえ見られ、マジョリティがマイノリティを飲み込んでしまいそうな危うい方向性が危惧されています。当然この世の中には、そして、加賀田中学校にも多様性を大切にしていかなければならない子どもたちや職員がいます。そのことも踏まえ、私たち職員や子どもたち、保護者のみなさまにも考えていただきたいことなのだと思います。ちなみに、現2.3年生にはほぼ同様の話を昨年度末の修了式にお話ししています。以下は入学式の式辞で述べた文章です。

みなさんは「多様性」という言葉を知っていますか。英語でいうと「Diversity (ダイバーシティ)」といいます。これは、人種や年齢、性別、能力、宗教、価値観、障がいといった様々な属性を持った人たちが、組織や集団の中で共存している状態のことを指しています。

少し難しいかもしれないので、もう少し簡単に考えてみましょう。

例えば、ラグビーのチームには体の大きな人、そして、その中でも体重が重い人、背の高い人がいます。また、足の速い人、軽やかに右や左にステップを踏んで、相手をかかわすのが得意な人もいます。そして、キックのうまい人や前進してくる相手に勇気をもってタックルする人もいます。さらに、冷静に状況を判断してどうすれば得点できるかを考える司令塔の役割をする人もいます。それぞれが自分の「持ち味」を出して、その力が混ざり合い素晴らしいひとつのチーム「ONE TEAM」になるのです。

このことはこれから始まるみなさんの中学校生活のクラスや学年、学校全体に置き換えられるのだと思います。人はひとりひとり顔や体格、性格や思い、考え方など様々な違いがあり、全くといって同じ人間はいません。たったひとつの共通点はみんな同じ大切な命をもった人間であるということです。

そして、みなさんの中にもいます。みんなをまとめ仲間を引っ張る人、目立たないけれど陰で支えながら協力する人、いてくれるだけで人をほっとさせてくれる人。事細かにあれやこれや言うけど、実は仲間のことを一番心配してくれている人。

そんな様々な仲間がひとりひとりの違いを認め、そして受け入れ、自分の「持ち味」を出して、また、弱みをお互いにカバーし合って仲間を大切にできるクラスや学年、そして、学校を、「ONE TEAM」を作り上げてほしいと思います。

**「多様性」を受け入れ、「持ち味」を出す。そして「ONE TEAM」へ。期待しています。**

といった内容でした。ひとりひとりが違ったものの考え方だからこそ、混ざり合っているいいものが出来上がるのだと思います。ひとつの考え方では、もし間違った方向に進んでしまったら…、

それは、大きな過ちが起こってしまうこと。これは、この国日本が経験してきたことです。

保護者のみなさまには、今後とも子どもたちのために、ご支援賜りますことをお願い申し上げます。